



県知事要望から5年、その後の働きかけは



渡邊 隆（久比岐野）

問／上越動物保護管理センターの移設・充実について、前市長は自身の保健所業務に携わった経験をもとに「あの施設の中で犬や猫の譲渡を見た人は、どんな思いをもつのか。市民の皆さん、団体、愛護団体を含めて話を聞きながら、県に対して要望することはやぶさかではない。」と見解を示し、平成29年12月に上越市と上越動物愛護協会上越支部の連名で県知事宛てに要望した。現在の働きかけの状況はどうか。

答／要望書を提出した際、県からは、動物の譲渡会を開催するに当たり、広く、また利便性の高い市の施設を活用したい旨の要望があったことから市では、市民にとってより身近で参加しやすい場所で開催ができるよう、上越科学館の一室を猫の譲渡会の会場として提供するなどの取組みを進めた。現在、県において上越動物保護管理センターの移転の計画はなく、現施設の環境整備等に取り組んでいると聞く。県の譲渡会に施設提供をするなどして協力する。

問／譲渡を推進している環境とは言えない。また県と協力できないか。

答／当時、県にお願いをしたが、根本の解決には至らなかった。県の施設であり、市が主導で進められない中で、今回議員から質問をされ、なんとかならないかと思った。きちんと議論をしていく時期に来ていると考えている。



ビジョン無し、誠意ある答弁無しに失望



宮越 馨（無所属）

問／市長は、地域ビジョンまで市民任せの丸投げ姿勢で、市の発展を大きく阻害させる！

答／行政都合を優先せず現場主義を徹底する。

問／8つの公約プロジェクトは、YouTubeで選挙公約したとのことだがその事実はない。公約詐称ではないか。

答／SNSで発信した内容と政策パンフレットの内容に多くの重なる部分があり、そのような発言をした。

問／複数の記念式典における挨拶文の取り違いミス問題は、関係者はもとより市民も大変憤慨しているが、なぜ発生したのか。

答／誤って違う式典の挨拶文を読みしまい、主催者などの皆様には大変失礼な振る舞いだった。深く反省している。

問／納得した上での政策協定の中で、すぐやるべき課題になぜ着手しないか。

答／納得したものしかやらない。

問／政策協定で約束した私のノウハウを生かせる体制をいつまでにとるのか！

答／直ちに整える考えはない。

原油高・物価高で困窮する市民のために！

問／全世帯の水道料金に減免措置を講じては。

答／今後の事業運営に支障を来し、将来世代に負担を強いることになるため、講じない。



性的少数者への支援を



平良木 哲也（日本共産党議員団）

問／生きづらさなど困難を抱えている性的少数者をどう把握し、どう支援しているのか。同性パートナーシップ制度を導入すべきではないか。

答／現時点では、目立った偏見や差別はないと認識している。市民相談の対応や市民セミナー、職員研修などを行っている。パートナーシップ制度には対象にならない制度等があるため、法整備を求める声が高まっていると認識している。

問／差別や偏見はないという認識自体が問題だ。あまりにも鈍感ではないか。もう少し勉強すべきだ。

答／当事者の方から直接訴えられた経験がある。本当の意味で研究をしていかなければいけないと認識している。

問／その認識であれば、なぜ制度創設をしないのか。日本は先進国の中でも、非常に遅れており、政府の責任で直さなくてはならないことは当然だが、自治体でもできることはあり、多くの自治体でやっている。どうしてできないのか。

答／提案するには、それなりの根拠が必要であり、性的少数者の存在確認が必要だ。

問／それはあんまりだ。カミングアウトすること自体が大きなハードルであるのに、それを強制するような冷たい姿勢でいいのか。

答／大切な問題だと思っているので、政策を進めていきたいと思っている。